

サツマイモ (ヒルガオ科)



も可能ですから、条件が許せばぜひ作ってみたい野菜です。

品 種

イモの皮の色（紅、黄、黄白など）や、肉の色（黄、乳白、紫、鮮紅色など）はさまざまなものがありますが、キントキ、高系14号、フクワセ、ベニセンガン、コガネセンガン、農林1号、農林5号、ベニアズマ、ベニコマチなどがよく知られた品種です。

しかし、各地方ごとにそこに適した品種が確立されていますので、その地方に合った品種を選ぶようにしましょう。サツマイモは土の性質も含めた環境条件によって、まるで異なる品種ではないかと思うくらい食味が変化するので。

栽 培 ポ イ ン ト

サツマイモは苗を植えて栽培します。苗の各葉柄の基部から出た不定根の一部が肥大してイモになります。熱帯原産で、発根には15度以上、生育適温22～30度が必要な高温性の作物です。10～15度になると休眠状態となり、9度以下で冷害を受けるようになります。したがって、おそ霜のおそれがなくなった5～6月に苗を植えつけ、夏に旺盛な生育をはかり、初霜の来る前に収穫するようにします。

日照時間は、1日あたり12～13時間が最適で、7時間以下では根の肥大がよくありません。特に生育期後半の日照不足は悪影響を及ぼしますので、なるべく日当たりのよい場所で栽培しましょう。

●管理● 乾燥には比較的強いほうですが、過湿には弱いようです。そのために、畑は深く耕して通気性をよくする必要があります。畝の中心部に堆肥やわら、刈り草などを入れ込んでやると、ある程度この条件を作ることができます。

肥料は元肥え主体で、追肥は特別なき以外はあまり施さないようにします。特に生育後半の追肥は、つるぼけのおそれがあるので注意します。追肥としてはカリ成分の肥効が大きく、季節的に雑草の繁茂がはげしいときですから、早めの除草、中耕をかねて施せばさらに効果的です。その後は、イモの草勢によって、雑草はある程度おさえることができます。干ばつのあるときには特に、8月中旬の水やりが大きな効果を上げます。

●収穫● 収穫は普通、初霜前に終わらせますが、初めのうちはさぐり掘りをしてみて、適期の目安をつけるようにします。収穫時にはイモを傷つけないように注意します。

栄 養

デンプンが主体で、糖分は1～3%にすぎません。サツマイモの甘みは、加熱するとデンプンがβアミラーゼによって分解され、糖類に変化したものです。最近ではジャガイモのような調理材料用として、アミラーゼを含まない（甘くならない）品種も開発されています。繊維質はイモ類中最も多く含まれ、食品としての有効性も注目されています。

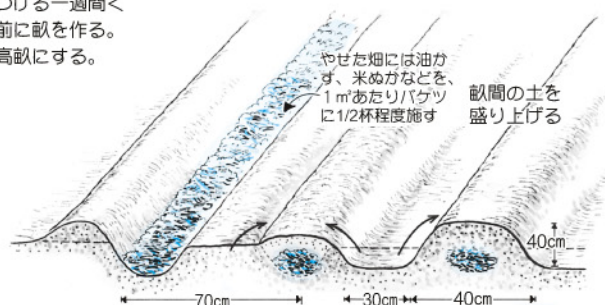
また、カロチン、ビタミンC、Eなどを含み、特に紅色からオレンジ色の肉色のものは、カロチンを多量に含んでいます。

無機質としてはカリ分を多く含んでいますが、これは塩とともにとることでバランスをよくします。

たくさんとれたときは穴を掘って土中に貯蔵しますが、イモは呼吸していますからイモの上にわらなどをかぶせ、通気をよくしてやります。また、生のままか、ゆでてから薄く切って干し、乾燥イモにすることもできます。

1 畝作り

畑を耕して、苗を植えつける一週間くらい前に畝を作る。畝は高畝にする。



2 苗の選び方

苗は5月に種苗店や農家から入手する。サツマイモの苗は茎と葉だけで、根はない。無病のもので、ややかためで節間が適度につまったものがよい。



○ 節間が適度に短く、しっかりしている



3 苗の植え方といものつき方

苗の植え方にはいろいろなやり方があるが、一般的には水平植えにする。イモは土に埋めた茎の、葉のつけねにつくようになる。

○7～8節の大苗

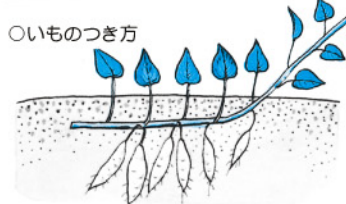
○小苗



○早掘り用

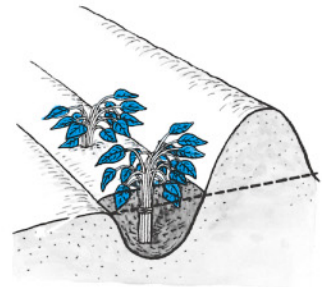


○いものつき方



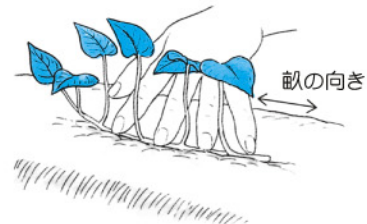
4 入手した苗の扱い

苗はしおれているので、畑の準備ができるまで束ねたまま仮植えておく。



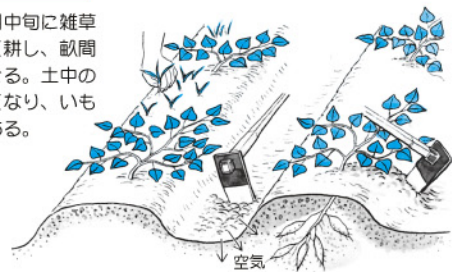
5 植えつけ

水はけがたいせつなので、苗は高い畝の頂上に植える。苗を畝と平行において、茎を指でぐっと押し込むようにして植える。



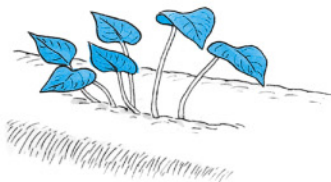
7 中耕・土寄せ

6月中旬と7月中旬に雑草をとり、土を浅く耕し、畝間の土を株元に寄せる。土中の空気の流通がよくなり、いもの肥大に効果がある。



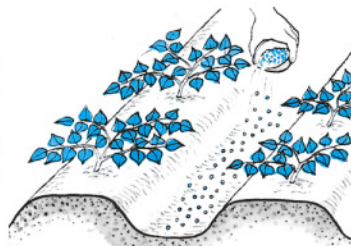
6 発根

1週間から10日で発根すると苗が立ち上がり、伸び始める。植えつけたあとしばらくはしおれているが、心配はない。



8 追肥

追肥の心配はほとんどないが、害虫の被害などで葉がひどくやられたような場合は、8月下旬～9月中旬までに草木灰などをまき、根元に軽く土寄せをする。



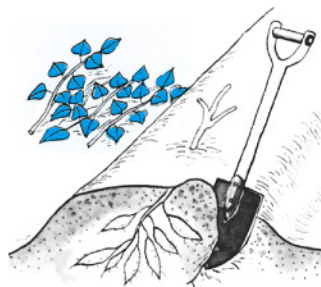
9 さぐり掘り

手で株元の土を掘って、いもの肥大を確かめる。この方法で一部を早掘りして、味を楽しむこともできる。



10 収穫

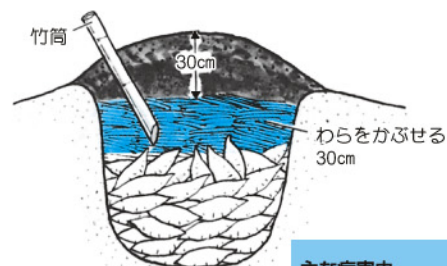
収穫は、つるをていねいに切りとってから、いもを傷つけないよう、しかもできるだけイモのつるから離れないようにスコップなどで掘り上げる。



土をゆるめて
1株ずつ手で掘り取る

11 貯蔵

晴天の日に掘り上げ、半日ほど乾かして土を払い、水はけのよい場所に穴を掘って埋める。



主な病害虫

- ◆病気 ウィルス病、黒斑病
- ◆害虫 ナカジロシタバ、コガネムシの幼虫、センチュウ